

令和七年度 第九〇期 初任教育入校式挙行!!

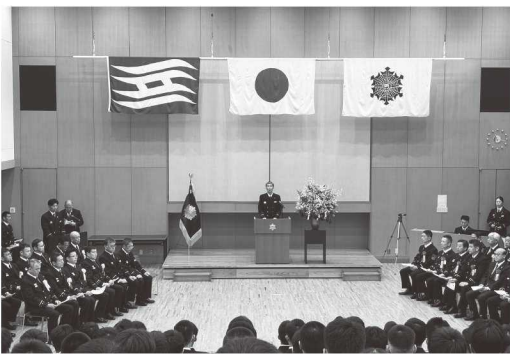
一六一名が消防士として訓練の第一歩を踏み出す!



第九〇期初任教育入校式



初任研修生 宣誓



消防学校長式辞



屋外 集合写真

令和七年四月三日(木)、県立広域防災センター消防学校において、第九〇期初任教育入校式が挙行されました。入校式では、各消防長及び関係者の方々の参列を仰ぎ、決意も新たに消防士としての第一歩を踏み出すこととなりました。

しい訓練を受けなければなりません。入校式後には早速、体力測定が実施され、教育生達は精一杯取り組みました。これから六ヶ月間の厳しい訓練で、頼もしい教官方に導いていただきながら、同期の皆さんと共に乗り越え、知識・技術を習得し、逞しい体力と精神力を兼ね備えた「消防士」として九月の卒業式を迎えていただきたいと思います。

兵庫県消防協会事務局員の異動一覧

旧		新	
主 幹	岡本 隆	主 査	梶浦 壮史
副主任	西尾 啓介	主 査	石原 武史
副主任	岸本 雅史	副主任	鹿川 カイ
		主 事	植木 陸斗

※全局員について団体での職名は書記とする

第四三回「兵庫消防」地区通信員会議開催

「広報紙「兵庫消防」の充実に向けて」
兵庫県消防協会事務局

兵庫県災害対策センター三階会議室において令和七年四月一四日(月)に第四三回「兵庫消防」地区通信員会議を開催しました。
今年度も県・消防協会及び各支部の事業やその他最新の消防事情等を掲載して、中身の濃い充実した広報紙を目指してまいりますので、今後ともご愛顧いただければ幸いです。

- 神戸地区
神戸市消防局 山下 勢渡
- 阪神地区
伊丹市消防局 榮口 慎
- 東播磨地区
加古川市消防本部 中村宏二郎



- 中播磨地区
姫路市消防局 田中総一郎
- 北播磨地区
北はりま消防組合 山本 佑気
- 西播磨地区
太子町 森澤 佑介
- 但馬地区
豊岡市 木村 典夫
- 丹波地区
丹波市消防本部 赤井 竜一
- 淡路地区
南あわじ市 前田 亮



消防団入団促進広報全国ツアー 開催

(消防庁主催 令和六年二月二十八日)

令和六年二月二十八日(土)、消防庁主催による「消防団入団促進広報全国ツアー」が、県内では初めてイオンモール伊丹にて開催されました。

今回は、地域防災力の中核である消防団のことを地域の人たちに知っていただき、さらに消防団への入団を促進するため「あなたの街で消防団やりませんか?」と銘打って開催されました。

消防庁が吉本興業とタイアップして実施しているこのイベントは、各地で好評を博しており、当日は押し詰まった年末にもかかわらず、早朝からご家族連れが、イベントステージ参加のための整理券を求めて長蛇の列を作っていました。それもそのはず、当初は令和六年八月三十一日(土)に開催される予定であったものが、台風一〇号の影響により中止を余儀なくされていたからです。

イベントステージが開始されるまでの時間を利用して、伊丹市・尼崎市の消防団員の皆さんが、来場された方にチラシを配ったり、小さなお子様に準備した輪投げの体験コーナーで景品を渡したほか、希望するお子様には、消防活動服を着て「ミニ消防団員」として記念撮影していた

たくさんなど少しでも消防団のことを知り、興味を持ってもらおうと様々な啓発活動を行っていたきました。

そして、イベントステージが始まると会場はさらに盛り上がりを見せました。MCからの消防団に関する真面目かつ軽妙な解説を皮切りに、消防団員が普段どんな職業についているのか質問するコー

ナーでは、ある意味意外な職業につかれています。団員もいることに会場からは「おおー!」の声も。そして、吉本興業の芸人の皆さんがそれぞれの芸やトークを披露すると、お子さんはもちろん、大人も我を忘れて(?)ボルテージは最高潮に!

特に元消防職員から芸人に転身という異色の経歴を持つ

芸人さんには、盛んに大きな拍手が送られ、イベント終了後の握手会でも快く記念撮影に応じるなど、人気を博していました。

消防団になんとかイメージが湧かなかった一般の皆様方にも、このイベントを通じて理解が進んだのではないのでしょうか。

最後に、当日参加いただいた伊丹市の久保団長、尼崎市の上岡団長をはじめ、両市の団員の皆さん並びに消防職員の皆さん、年末の何かとお忙しいところイベントを盛り上げていただき、ありがとうございました。そして大変お疲れさまでした。



啓発活動の様子



輪投げコーナー



尼崎市消防団員と職員の皆さん



伊丹市消防団員と職員の皆さん

令和六年度 「ひょうご安全の日」のつどい」開催！

兵庫県公館会場



ルウォーク二
〇二五、③交
流ひろば・交
流ステージ・
防災訓練等、
④地域のつど
いの四部構成
で行われ、三
六〇〇人が参
加しました。

内容

一・一七
のつどい
阪神・淡路
大震災三〇
年追悼式典
震災から三
〇年の追悼式
典を天皇皇后
両陛下の御臨
席の下、開催
し、阪神・淡

メモリアルウォーク



路大震災で犠牲となられた
方々への哀悼の誠を捧げると
ともに、安全・安心な社会つ
くりに向けて歩む決意を内外
に発信しました。

二・一七ひょうごメモ
リアルウォーク二〇二五

阪神・淡路大震災から復興
した街並みを歩き、風化しが
ちな防災意識を高めるため、
「一・一七ひょうごメモリア
ルウォーク二〇二五」を実施
しました。実施にあたっては、
H A T 神戸・協の浜（復興住
宅）で開催された「震災三〇
年メモリアルイベント」未
来へつなぐ ふれあい復興
の絆」と連携し、コースの
一部に設定しました。

三 交流ひろば・交流ステー
ジ・防災訓練等
交流ひろばでは、関係機関
や N P O、ボランティアア
グループ等による活動展示や炊
き出し、子どもたちを対象に
した防災体験、防災教室など
を実施したほか、展示コー
ナーには、五九団体が出展し、
「若者への経験・教訓の継
承」に重点を置いて、多様な
情報を発信・交流しました。

交流ステージでは、県内高
校生による合唱や兵庫県警察
音楽隊によるコンサート等に
加え、落語家による震災ト
ークや太鼓ライブを実施しま
した。また、県民参加による
防災関係機関と連携した実践
的な「防災訓練」を実施しま
した。

他にも、毎月一七日は、人
と防災未来センターは無料開
放としており、メモリアル
ウォークや追悼式典参加者が
来館しました（見学者三、四
〇〇人）。震災三〇年の機会
を捉えて実施した特別展示等
を多くの方が観覧しました。

交流ステージ書道パフォーマンス



令和六年度 兵庫県女性消防団員活性化研修会 開催！

公益財団法人兵庫県消防協会

この度の女性消防団員活性化
化研修会は、令和七年二月一
六日（日）、兵庫県広域防災
センター兵庫県消防学校の講
堂において、実施されました。
内容としては、尼崎市
消防団「あまがさきファイ
ヤーフェアリーズ」による活
動事例の発表と、一般社団法
人リスクウォッチ顧問の長谷
川祐子氏による講演を行いました。

尼崎市消防団「あまがさき
ファイヤーフェアリーズ」に
よる活動事例発表では、活動
内容の紹介、防災啓発活動で
実践されている「こんなとき
どうする？」クイズ&寸劇の
実演、また「あまがさきフ
アイヤーフェアリーズ」が作詞
した防災啓発ソング「一人ひ
とりの大切な命」を研修参加
者全員で合唱しました。

一般社団法人リスクウォッ
チ顧問の長谷川祐子氏の講演
では、「新たな災害環境に対
応する消防団のあり方」と題

一般社団法人リスクウォッチ
顧問 長谷川 祐子氏の講演尼崎市消防団「あまがさきフ
アイヤーフェアリーズ」による「こ
んなときどうする？」クイズ&寸劇
の実演「あまがさきファイヤーフェアリーズ」防災啓発ソング
「一人ひとりの大切な命」を合唱

し、講師が過去二四年間にわ
たり勤務した米海軍横須賀基
地消防隊で出会ったアメリカ
の危機管理教育プログラムを
もとに、大震災時に救助や救
護は直ぐに来てくれない状況
で、自分を守り、家族を含め
た地域住民を守り抜くために
「災害時に何かをすること」
について講演いただきました。

今回の研修会へご参加いた
だきました女性消防団員の皆
さんが、学んだ内容をそれぞ
れの所属消防団にフィード
バックしていただき、今後の
活動に活かしてくだされば幸
いです。

最後になりましたが、いろ
いろご準備いただき発表され
た尼崎市消防団「あまがさき
ファイヤーフェアリーズ」の
皆さんのおかげで有意義な研
修会を実施できました。この
場をお借りしてお礼申し上げ
ます。
ありがとうございました。

消防団ピックアップ

Pick Up!

『愛と勇気と希望をもって』

多可町消防団

多可町は、兵庫県の内陸部に位置しており、東西一三キロメートル、南北二七キロメートル、総面積約一八五平方キロメートルを有しています。また、千ヶ峰などの中国山地の山々に囲まれており、三国岳を源とする杉原川、笠形山を源とする野間川が流れる、多自然居住の町です。

平成一七年一月一日に旧加美町、旧中町、旧八千代町の三町が合併して多可町が誕生するとともに、加美町消防団、中町消防団、八千代町消防団が合併して、多可町消防団が発足しました。合併前から続く「愛と勇気と希望をもって」の言葉を胸に、消防団活動に取り組んでいます。

【多可町消防団について】

令和七年四月一日現在、多可町消防団は、一二分団五九部、団員数六四六名、機能別団員数二〇〇名、計八四六名で、地域の防災の要として日夜精力的に活動しています。

多可町消防団は、近隣市より団員数（人口比）が多く、災害現場での対応も常備消防と変わらない活動をこなします。主な活動として、災害対応はもちろん、防火パトロールや水防訓練などによる予防啓発活動や、直接家に訪問して消火器の点検を行う活動など、多可町民が安心・安全に暮らせるまちづくりを行っています。また、地域の高齢化

に伴い、高齢者への見守りや声掛け、捜索案件など新たな活動も増えています。

【地域とのつながりと訓練】

多可町では、令和七年四月に生涯まちづくりプラザ「あすみる」がオープンし、町全体で子育てを応援しようとする取り組みや、あらゆる世代の人々がつながるまちづくりを目指す中、多可町消防団も、住民の方々に安心・安全を提議できるよう、秋と春の火災予防運動において、火災を想定した、消防団と常備消防との合同訓練を毎年実施しています。

水利の位置把握、無線機等による伝達方法の確認、各部の連携のもと中継放水を行う方法など、水利確保から放水までの一連の動作を計画・実行・評価し合うことで、改善点が把握でき、今後の消防活動に役立つ有益な訓練となっています。

また、毎年九月の「防災の



秋季実践訓練中
法幢寺協力のもと訓練を行う第九分団



防災訓練
消防団による
簡易担架での
搬送実演
(東山集落)



防災訓練 消防団による消火器の
放射実演 (西脇集落)

『備えあれば憂いなし』

豊岡市出石町は県北東部に位置し、町並みに城下町の面影を色濃く残す「但馬の小京都」と呼ばれる観光地を有する町です。

豊岡市出石消防団は、全一分団、団員数三三五名（令和七年四月一日現在）で消防団活動に取り組んでいます。

日頃から精力的に防火意識の向上に努めており、毎月の一斉防火パトロールをはじめとした各分団の防火啓発活動が奏功してか、最近では火災件数も僅かとなっています。

しかし、突然訪れる有事に備え、我が団では、迅速かつ的確で安全な消防活動を行うために様々な訓練を実施しています。

豊岡市出石消防団

◆新入団員・幹部団員合同訓練

新年度の始まりにあたり、入団四年未満の新入団員及び班長以上の幹部団員の合同訓練を毎年実施しています。新入団員は市消防署員が、班長から副分団長は分団長が指揮者となり基本動作の訓練をします。毎年反復して訓練する



林野火災を想定した合同訓練

【今後について】

近年は、少子化による団員数の減少や団員の高齢化、働き方の変化による昼間団員の不在など、消防団を取り巻く情勢が大きく変化しています。団員一人一人が規律を遵守し、地域住民の生命、身体及び財産を災害から守るという任務を遂行するため、今後ともさらなる消防団員の充実強化を図り、多可町の安心・安全に努めていきます。

ことで基礎を身に付けることができます。

◆隣接団との合同訓練

隣接する市内但東消防団との合同訓練を定期的に実施しています。山林や住宅密集地域での火災を想定し、他団からの中継放水による放水を行うなど、大規模火災時にも対応できる消火体制の確立に向けた訓練を行っています。

◆水防訓練

出水期を迎える時期に、兵庫県立広域防災センターで実

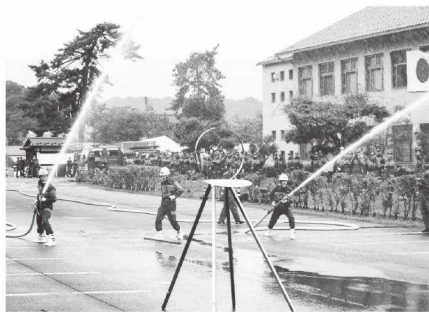


月の輪工法・釜段工作を学びます

施される水防技術講習会を受講した団員が指導員となり、土のう積みなどの訓練を毎年実施しています。平成一六年の台風二三号の教訓を忘れないためにも、水害対応の訓練を欠かすことはできません。

◆消防操法大会

消防操法における各隊員の動作の正確性・迅速性・連携力等を競うポンプ操法大会を毎年実施しています。各分団における日頃の訓練の成果を広く地域住民に披露し、住民



火点めがけて放水します

の安心感を向上させること、また、完成度の高い分団を顕彰することにより、指揮の高揚を図ることを目的としています。

◆普通救命講習

市消防署員の指導による普通救命講習会を毎年実施しています。一次救命処置の手順として、心肺蘇生法とAEDの使用について基本から学び、指導員のアドリブにより様々な場面を想定しながらトライ＆エラーを繰り返すことで実用性のある救命技術を身に付けます。

豊岡市出石消防団の訓練の一部を紹介させていただきましたが、ほかにも、定例の会議前に礼式通常点検を行うなど、恒常的に訓練に励んでいます。地域の安全安心を守る消防団として、これからも日々の訓練に精進してまいります。

われら 若手消防団員

〜家島を守るために〜



姫路市
家島町消防団
宮分団 団員
山田 大成

このたび、姫路市家島町消防団宮分団に入団しました。私たちが住んでいる家島は、住宅が密集している地域が多く、一度火災が起きてしまうと、周囲への延焼リスクが高いという特徴があります。また、常備消防の消防車がないため、消防団の消防力のみで消火活動を行わなければなりません。そのため、火災の予防と初期対応が非常に重要であり、日頃からの

備えが欠かせません。訓練では、放水の操作や消火器具の扱いだけでなく、現場での連携や安全確認の動きまで、繰り返し体に覚えさせています。実際の現場では一瞬の判断が被害を大きく左右するため、緊張感を持って訓練に励んでいます。

先輩団員の皆さんからは、技術はもちろん、地域への思いや責任感も学ばせていただいています。まだまだ未熟ではありますが、若手の一員として、少しずつでも信頼される存在になれるよう努力を続けています。家島の大切な暮らしと風景を守るために、これからも日々の訓練に真剣に向き合い、地域に貢献できるよう精一杯頑張っていきたいと思っています。

わが町の団長さん

「カッコいい
消防団を目指して」

神戸市中央消防団

櫻井 良生



われわれ神戸市中央消防団は、「都市部」や「郡部」、「山間部」、「沿岸部」を持つ兵庫県の中でも県下随一の繁華街、高層ビル群、多くの観光スポットなどを抱える「大都市神戸の核」ともいえるべき「中央区」を神戸市中央消防署とともに守っています。阪神・淡路大震災の時がそうであったように、発生が危惧される「南海トラフ巨大地震」の発災時には、未曾有の災害になることは間違いなく、それに備えて日々訓練を重ねています。

その中央消防団を牽引する櫻井良生団長を紹介します。櫻井団長は、全国的に見ても珍しい経歴を持たれております。まず、法律を教える現役の大学教員であり、加えて、著名な神社の神職であるとともに、区内の小さな神社の宮司も無償で引き受け、奉仕されておられます。

また、阪神・淡路大震災の時には、現職の神戸市会議員であると同時に、北区の若手消防団員だったこともあり、震災直後の惨状を間近で見て、より一層「消防団の重要性」

を痛感したそうです。以後「率先垂範・現場には必ず駆けつける！」との信念のもと、これまでの経験、知見を最大限に活用し、「頼られる消防団」、「期待に応える消防団」として、団員の先頭に立ち、自他ともに認める「カッコいい消防団」を目指しております。

「『普通』を守る
『特別』な使命！」

丹波篠山市消防団

西尾 和磨



我が西尾団長は、日本酒をこよなく愛する老舗造り酒屋の当主でもあり、地元劇団サークルの人気お笑いスター

でもあり、生業にサークル活動にと、幅広く活躍されています。

消防団員の経験も三四年と長く、自ら指揮・活動の先頭に立つ行動力、団組織の改革等に取り組む実践力、卓越したリーダーシップにより、団員からも地域住民からも厚い信頼が寄せられています。

その団長が、団スローガンに掲げた言葉が「『普通』を守る『特別』な使命！」。私

たちには何気ない普通の安寧な日常生活があり、その当たり前の安全安心を守り抜くことは時として難しく、だからこそ消防団に課せられている使命は重要で特別だ、という思いが込められています。一人の市民が消防団員という立場で、家族や地域、財産を守る。団長の長年の経験から醸し出された、消防団哲学のようにも感じます。

そういえば、団長がよく着ているTシャツには「名聲布四海（めいせいふしかい）」という文字が刻まれていて、広く世界に名前が行き渡る、という意味があります。スローガンの「『普通』を

守る『特別』な使命！」を全ての団員が共有し、やりがい・使命感を次の世代に引き継いでいけるよう、これからも消防力向上をめざして進んでいきます。

「厚い信頼、地域に
愛される団長」

上郡町消防団

井上 誠



上郡町は人口約一三、〇〇〇人、兵庫県の南西部に位置し、面積は約一五〇平方キロメートル、町の大平が山地・丘陵地が占め、中央部を南北に清流千種川が流れ、さらに町全体が「水の郷百選」に指定されています。

上郡町消防団は昭和三〇年三月に発足、本年度で七〇周年を迎え、現在は一九分団、定数は六三〇名で構成され、上郡町の安全・安心を守っています。

井上団長は、平成六年に上郡町消防団に入団され、平成二八年四月に分団長、令和二年には副団長に就任、普段の生活の中でも常に消防団の活動を優先的に考えられ、その責任感の強い人柄から、部下団員からの信頼も厚く、常に円滑な消防団運営に努められ、本年度より団長に就任されました。

また普段は上郡町で創業七一年を迎える自動車整備工場

を営まれています。車が必須である上郡町での安全・安心な生活を支える仕事ぶりには地域住民からの信頼も厚く、その堅実さは消防活動の中でも生かされています。

火災時には、誰よりも早く現場に駆け付け、常に広い視野で状況を冷静に判断し、団員の安全にも十分配慮しながら団員を指揮されます。また現在の消防団を取り巻く環境の変化においても、町民のニーズに応じた環境づくりにも注力されています。

今後も地域に密着した消防団としての職務の重要性を念頭に、より一層の防災減災対策に取り組み、上郡町が目指す「安全・安心で、すべての世代が愛着を持ち、住み続けられる町づくり」に貢献したいと決意を胸に活動されています。

がんばってます、
女性消防団員女性消防団員が担う
地域防災力の向上を目指して

たつの市消防団

たつの市消防団では、平成二〇年四月に初めて女性消防団員を任用し、現在では二名の女性消防団員が各地区の分団に所属し、地域防災活動に従事しています。

主な活動としては、災害現場への出動や地域での防火・防災訓練への参加があり、応急手当普及員の資格を有する女性消防団員は、自治会などで応急手当の普及指導に携わり、リーダー的立場として市民の安心・安全に貢献しています。

また、女性消防団員の広報活動の一環として、消防出初式や成人式において独自に作成したチラシを配布し、普及啓発活動にも積極的に取り組んでいます。さらに、毎年一月に開催される消防出初式では、はしご乗りの演技を披露することで、女性消防団員の存在を広くアピールしています。

令和六年度には、女性消防団員技術研修会としてドローンの実技講習に参加し、近年多様化する災害への対応力を高めるため、操



ドローン実技講習での操作訓練



はしご乗り演技（うしろ回り）